

## 第3期（2019年度）事業計画書

（2019年8月1日から2020年7月31日まで）

定款第4条に定める事業の充実を図り、財団の管理運営を遺漏なく行い、本財団に対する関係各層のいっそうの理解を深めるため次のとおり各事業を実施する。

### 1. 生物学及び周辺分野における基礎研究の助成事業 【 予算 61,300 千円 】

#### (1) 基礎科学（一般）研究の助成

世界に先駆けて生物学及び周辺の新分野を拓き得る先見性・独創性に優れた基礎研究、国や公的機関による助成がなされにくい基礎研究、及び任期切れ・定年等により継続が困難となる基礎研究に対して、総額 48,000 千円の研究助成を行う。研究助成の選考審査費用として 810 千円、通信費等の諸経費として 80 千円、計 48,890 千円を計上する。

[ 予算 48,890 千円 ]

#### (2) 基礎科学（酵母）研究の助成

日本における酵母研究は長い伝統をもっており、本財団理事長 大隅良典によるオートファジー研究を例に挙げるまでもなく、多くの生命現象の分子レベルでの原理解明に頻繁に用いられて多大な貢献をし、国際的にも高く評価されてきた。しかし近年、酵母研究の拠点が急速に、かつ全国規模で失われつつある。酵母研究の底上げの必要性が極めて高い現状に鑑み、酵母の生理現象を対象とした基礎生物学的研究に対して、総額 12,000 千円の研究助成を行う。研究助成の選考審査費用として 360 千円、通信費等の諸経費として 50 千円、計 12,410 千円を計上する。

[ 予算 12,410 千円 ]

### 2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業 【 予算 8,470 千円 】

#### (1) 創発セミナー（企業経営者・研究者、大学等研究者との勉強会・交流会）

企業の研究開発においては、研究難易度の上昇、グローバルな競争激化、製品化スピードの要求といった厳しい状況の中で、新しい着想の重要性が益々高まっている。一方、大学や研究所の基礎研究には、企業の研究開発のシーズとなりうるものが数多く眠っていると思われる。しかし、企業と基礎研究者の情報交換、交流が十分になされてきたとはいえない。本セミナーでは、基礎科学の先端的研究者と企業の第一線の研究開発者が一堂に会し議論する中で気づきを得ることを目指し、年9回開催する（下表参照）。

セミナー参加費は 3,000 円（招待枠あり、第9回（感謝の集い）は参加無料）とし、交流会参加者には 3,000 円の実費負担を求める。

回	時期	内容
1	2019/9	アドバイザー会議 財団のアドバイザーと財団の研究者等で、財団の活動、及び大学と企業のより有効な関係構築等について議論を行う。
2	2019/10	テーマ「極限微生物の話、超好熱性細菌」

3	2019/11	テーマ「酵母」 酵母関連のテーマについて、企業研究者と大学研究者との情報交換・相互交流を推進し連携構築をめざす。
4	2019/12	セミナー及び研究助成贈呈式を行う。酵母の研究助成対象者には「大隅基礎科学創成財団 酵母コンソーシアムフェロー」の称号授与も行う。
5	2020/1	テーマ 仮)「植物から進化を考える」
6	2020/2	アドバイザー会議 財団のアドバイザーと財団の研究者等で、財団の活動、及び大学と企業のより有効な関係構築等について議論を行う。
7	2020/4	テーマ未定
8	2020/5	テーマ 仮)「酵母を材料とする一般生物学研究」
9	2020/7	感謝の集い ご支援いただいた皆様を対象として財団の活動報告及び講演会を行う。

[予算 7,440 千円 ]

(2) 市民講座の開催（市民及び学生を対象とした基礎科学の普及啓発活動）

市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化の醸成及び地域社会への貢献に資するため、年1回、市民講座を開催する。

講師謝金、旅費交通費、通信費等として、400 千円を計上する。

[予算 400 千円 ]

(3) 次世代を担う小中高生と研究者とのふれ合いの集いの開催

次世代を担う小中高生に将来基礎研究者として活躍して欲しいという願いを込めて、年2回、全国各地で「小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い」を開催する。会場では、最先端研究者による講演のほか、実際に観察等を体験する機会とする。

講師謝金、旅費交通費、通信費等として、630 千円を計上する。

[予算 630 千円 ]

3. 事業推進【 予算 13,169 千円 】

前記1及び2の事業を適切に運営するための事業推進費を設け推進する。

今年度は、活動を一層強化し幅広いものにするために、財団の趣旨に賛同する研究者を賛助研究者としてネットワーク化を行う。

前年度に引き続き、財団の事業紹介や情報開示を積極的に行い、寄付金や会員募集に努める。

4. 管理業務【 予算 15,164 千円 】

財団運営に係わる管理業務については、理事会、監事監査、評議員会を開催・運営するとともに、行政庁への届出等対応業務やその他の諸業務も適切に行う。

以上